

赤羽別院報 第44号

発行所 真宗大谷派 赤羽別院 観音寺
〒444-0427
愛知県西尾市一色町赤羽上郷中14
Tel・FAX (0563)72-2308
Eメール akabane_betuin@katch.ne.jp

三河の廃仏毀釈



私は、『愛知県史』民俗編の編集に携ったとき、その調査を15年間程やってきました。
その中で、奥三河では半分程のお寺が潰されて、神道化していったと聞きました。

東三河は廃仏毀釈で、西三河では殉教、この辺りは大浜騒動です。東三河と西三河では全く正反対の形で展開し、ずいぶん違いがあります。
この命を受けた浄土真宗は、3月8日、事件の中心人物である連泉寺(安城市小川町)・石川台領師が「天拝日拝」神前の祝詞というのを、真宗の教えとは全く反対のことが、寺を潰せ、統廃合しようとするのは一宗が興きか廃れるかという危機の時、身を賭してでも立ち向かう」と演説した。台領師とこれに同調した30数名の僧侶は、暮野教会(岡崎市暮野町)で話し合いを、三つの条件を提案して、服部少参事の命令を阻止しようとしたのです。

大浜騒動は明治4(一八七二)年3月8日に起きました。前年の7月に大浜陣屋の菊間藩出張所に、服部純といふ役人がやってきて、明治維新政府の打ち出す改革を次々と断行していききました。
その中で、明治4年2月15日に寺院の統廃合についての質問が出されました。即ち「檀家のない寺や経済的なものがない寺は合併しなさい」「住んでいた僧侶や尼さんは、みんな本寺に帰るなり遷俗しろ」という事項が申し渡されて、

良いかどうかというのを問われたのです。
浄土宗や禅宗の僧侶は、すぐに引き下がりました。しかし、真宗の人たちは「こんなことが勝手に決まれば、何とか日延べをして、何とか日延べを言ったんです。このように先ず事件の起る前にあります。」

「三つ目は、宗門にあるまじき呪文。祭りや神社で門徒に祝詞を唱えよということ撤回させる。天皇や天照大神を拜む天拝日拝は、浄土真宗の者には撤回する。」
二つ目は、寺の統廃合のこととは少し見合わせて欲しい。三つ目は、宗門・戸籍のことは今まで通りにする。この時に同調・加勢に集った者たちは龍讀寺で作った竹槍を手に、矢作川の野錢堀を通り、菊間藩の大浜出張所を目指して進んでしまいが、その数は驚愕(碧南市暮野町)に到着した時には数千人に達していたといわれます。

このことを聞いた菊間藩の役人たちは、驚愕へ向かい、庄屋片山俊次郎宅で台領師と面会して交渉がうまく進まず、待ちくたびれた門徒民衆は連成寺の鐘を撞き、交渉談判中の片山宅に押しかけ、飛び出してきた役人の一人を殺してしまったのです。
これが事件の概要で、この日はみんな一度帰って、それから自首したのですが、台領師は首謀者として投獄され、明治4年12月27日に29歳で死刑に処されました。他にも僧侶や門徒に死刑・獄死者が出たのが頻末です。

その後、結果的には本山の介入もあり、戸籍の問題だけは抜きにして、藩側から寺院側への要求はある程度撤回されたようです。
「廃仏」は仏を廃する(毀釈)の毀は壊す、釈は釈家(仏教)の教を壊す(毀)と、廃仏毀釈とは仏教を壊すということ。神祇不拜ということでは真宗の伝統としてずっとありました。廃仏毀釈の動きはその後のどうなるかといふこと。東三河では神道化していき、西三河では神道化していき、奥三河では神道化していき、民俗宗教です。自然のものに神々が宿る、自然の神、土地の神である氏神、鎮守の神。それに、人神といつて亡くなった神として祀られる現人神もありました。人生を全うした人や事故など非業の死で亡くなった人たちは、きちんと祀らないと祟るわけ。このころ、真宗の考え方がどうなるかといふことが出てくるわけ。日本は中世より「本地垂迹」といふ考え方があり、この地が仏でそれが神様としてあらわれ出てきた。元は仏の方が主で、神様の方が従ったのです。それが、鎌倉時代以降反対になり、神様が中心で仏が従った。「神本仏従」といふ考え方が出てくるわけ。こうして、明治の時には神道化という考え方が出てくるわけ。

神道化

奥三河の豊根村を調査した時、神道化した経緯を聞きました。神仏分離の際、どちらにするかという折に、神道の方が簡単だからと全戸が神道と説明された。
西三河には、と解らないくらい奥三河ではお寺が潰れていくのです。村の檀家が半分以下になったのです。潰れてどうなったかという神道になった。檀家を離れて神葬祭をやるわけ。
奥三河や東三河ではどうしてそのようになったのか。稲武には昔から名望家で古橋源六郎という人がおり、この人が離魂神葬祭という神道化の形をとったため、みんなそれについていき、また、豊橋には神道の考え方を支持、国学者平田篤胤の弟子で、神主の羽田野敬雄という人物がいて、東三河一円に大きな思想的影響をもっていました。

一方、西三河の方では、真宗の唯法寺(西尾市順海町)の古部親順師や安休寺(西尾市一色町)の雲英晃耀師などが、門人の教育機関としての社中を作りあげていました。
全ての村の中心的な名主やその補佐的な人たちは真宗門徒が多かった。だから、そういうところに神前で念仏をやるという土壌になって

いたのです。東三河と西三河では全然違うのです。
守るべきものはありますか
何か強要された時、今まで神様の前で念仏を称えていて、それを祝詞を唱えろと言われたら、たまたまそれだけのことで迷いますよ。知らない間に徐々に色々なことが変わってしまふ。自分の守るべきものをしっかりと持っているといふ、やっぱり流されていく。
「死んで往ける道は、そのまゝ生きてゆく道です」という言葉があります。死んで往ける道を持ってますか？死んで往ける道があれば、そのまゝ生きてゆく道です。だから、道が無ければ生きることも死ぬこともできないのです。今のお墓やお葬式をどうしよう、あれは「死に方」です。道のこと何もない。大事なことは道があるかどうか、持っているかどうかということです。「この世の花一輪散るとも、浄土の花一輪開くとも」、いい言葉です。「この世の花一輪散るな散る」わけですが、その次の「浄土の花一輪開くと」といこう言えますか。

「死んで往ける道は、そのまゝ生きてゆく道です」という言葉があります。死んで往ける道を持ってますか？死んで往ける道があれば、そのまゝ生きてゆく道です。だから、道が無ければ生きることも死ぬこともできないのです。今のお墓やお葬式をどうしよう、あれは「死に方」です。道のこと何もない。大事なことは道があるかどうか、持っているかどうかということです。「この世の花一輪散るとも、浄土の花一輪開くとも」、いい言葉です。「この世の花一輪散るな散る」わけですが、その次の「浄土の花一輪開くと」といこう言えますか。

台領師は「お浄土の蓮台のところで待っている」と言っていました。
「死んで往ける道は、そのまゝ生きてゆく道です」という言葉があります。死んで往ける道を持ってますか？死んで往ける道があれば、そのまゝ生きてゆく道です。だから、道が無ければ生きることも死ぬこともできないのです。今のお墓やお葬式をどうしよう、あれは「死に方」です。道のこと何もない。大事なことは道があるかどうか、持っているかどうかということです。「この世の花一輪散るとも、浄土の花一輪開くとも」、いい言葉です。「この世の花一輪散るな散る」わけですが、その次の「浄土の花一輪開くと」といこう言えますか。

台領師は「お浄土の蓮台のところで待っている」と言っていました。
「死んで往ける道は、そのまゝ生きてゆく道です」という言葉があります。死んで往ける道を持ってますか？死んで往ける道があれば、そのまゝ生きてゆく道です。だから、道が無ければ生きることも死ぬこともできないのです。今のお墓やお葬式をどうしよう、あれは「死に方」です。道のこと何もない。大事なことは道があるかどうか、持っているかどうかということです。「この世の花一輪散るとも、浄土の花一輪開くとも」、いい言葉です。「この世の花一輪散るな散る」わけですが、その次の「浄土の花一輪開くと」といこう言えますか。

台領師は「お浄土の蓮台のところで待っている」と言っていました。
「死んで往ける道は、そのまゝ生きてゆく道です」という言葉があります。死んで往ける道を持ってますか？死んで往ける道があれば、そのまゝ生きてゆく道です。だから、道が無ければ生きることも死ぬこともできないのです。今のお墓やお葬式をどうしよう、あれは「死に方」です。道のこと何もない。大事なことは道があるかどうか、持っているかどうかということです。「この世の花一輪散るとも、浄土の花一輪開くとも」、いい言葉です。「この世の花一輪散るな散る」わけですが、その次の「浄土の花一輪開くと」といこう言えますか。

別院行事のご案内
報恩講
10月14日(水) 初速夜 午後1時30分
法話 第25組 守観寺 渡邊 尚子師
10月15日(木) 日中 午前10時
速夜 午後1時
法話 第13組 長壽寺 和田 純信師
10月16日(金) 結願展覧会 午前10時
結願日中 午後1時
法話 第7組 心城寺 天野 義敬師

第5回 みどろコンサート
美ら歌コンサート
10月15日(木) 午後3時30分 報恩講終了後
三河仏壇職人・曾根さんとそのグループ
第2回 赤羽御坊俳句会
11月16日(月) 午前10時
＊詳細は本頁左欄に記載

除夜の鐘(初鐘)しよのかね(はつがね)
12月31日(木) 午後11時30分より
先着順にどなたでも鐘撞きできます。
甘酒・菓子等を用意しています。
修正会
1月1日(金) 午前1時(初鐘に引き続き)
法話 輪番 三浦 真教師

晨朝法話
10月13日(火) 第8組 宿縁寺 織田慶雄師
10月28日(水) 同 福正寺 本多友明師
11月13日(金) 第9組 了淨寺 大澤厚淳師
11月28日(土) 同 祐正寺 中村拓介師
12月13日(日) 第10組 願正寺 三村謙作師
12月28日(月) 同 玄照寺 静 義孝師

堀田 護師 による 暁天講座

赤羽別院の暁天講座は、清涼感溢れる早暁を迎えた8月25・26日の両日多数の聴聞者を迎えて開催された。初日は、岡崎市長宗寺の堀田護師が「恩を生かす」をテーマに、私達の日頃の生活の中のでき事と照らし合わせてお話をされた。

「恩」とは「ありがたみ」、ごめんなさい、お世話になります。即ち『恵み』に生かすことである」と説かれ、釈尊が涅槃のなかで「恩を知らないものは畜生に等しい」と説かれた言葉を引



堀田師の講座

用し、「恩」は人であることと問われる大切なことであるとお話をされた。

二日目は、第8組専念寺の羽向智洋師より、「蓮如上人御一代記讀書」から、「まきたてがわるきなり」をとり上げお話しされた。

またさては、「一度種を蒔いた後には手を止まさない、即ち、自分には間違いはないということであり、これでは、まごとの心「信」が得られず、自分で自分を直すことができない。自分で心の中を明かして直さなければいけないと話された。

まごとの心の反対は下心で、私達の心には必ずそのはん動が入っています。身の回りのでき事の全てを自分の価値観により直しをしを言っていると論じられた。両日ともに心に残る法話を聞き、満足感に溢れる一日のスタートとなった。

会の名称を改めて 赤羽ブロック世話方会発足

平成24年に発足したが、活動が停滞していた赤羽地域総代会は、会員の任期満了を機に、その名称を一赤羽ブロック世話方会」に改めて再出発し、7月15日に総会を開催した。

輪番挨拶に次ぎ議事では、会長・田中弘(第10組法園寺)、副会長・高須安忠(第13組明徳寺)、同・土谷松治(第14組本傳寺)、会計・杉山巧(第9組正覺寺)、監事・小笠原恒一(第11組蓮華寺)、同・山本要一(第12組蓮光寺)以上7氏が役員に選任された。正式に発足の運びとなった。

この後の懇談の場では、「私の手次守の任職は、今日、本会が開催されることすら承知していない。お寺さんの法義相続に対する熱意の



欠如は憂える状態といえる。これは真宗の将来を暗示するもの」との激しい発言に対し、同意を唱える会員が数多く見受けられた。

このことは過去においても指摘されてきたことであるが、眞摯に受け止めて然るべきものと考えられる。

また、会員が未登録の寺院においては、早期登録が待たれることである。

神奈川教化センター設立に向けて 横浜別院一行15名がご来院

初秋の風が心地よい8月31日、横浜別院の「神奈川教化センター準備委員会」一行15名がご来院された。

今回の訪問は、来春発足を目指す「神奈川教化センター」に資するための視察であり、当方は、三浦輪番、浅野前輪番以下教化センターの幹部スタッフ7名がお迎えされた。

三浦輪番の挨拶と概況説明の後、浅野前輪番より当別院の教化センターの組織・運営・財政状況・人材の育成等、地域活性化のための取り組みについて、細部に及ぶ説明がなされた。

この後の意見交換・質疑応答では、各種事業の別院と教化センターの区分け、崇敬寺院への割当金等々、活発な質疑応答があった。

別院の運営については、各々の別院において財政面での較



熱心にディスカッション

声明研鑽会を開催

僧侶対象の声明作法研鑽会が、6・9月の各月一回、講師に第8組宿禰寺・織田頭聖師を招いて開催された。

各寺院において厳修される報恩講の勤行を中心に、基礎的な声明作法の習得を目的とするものである。

一回目、6月4日(正信偈・文類偈の真四句目下)、二回目、7月2日(「五海念仏和讃・五遍反・回向」、8月6日三回目(「如陀」、最終回の9月3日)には「拝読文(御文・御俗姓)」について教示いただいた。

随時の質疑応答を交えて、基本となる事項や実際の法要の場で役立つ具体的な事例も採りあげられた。

また、最初に参加者の希望を聞き優先して説明して下さるため、日頃感じている疑問点や困っている事にも助言が受けやすいのが



赤羽別院の歴史 その3

元禄13(一七〇〇)年、赤羽郷に創建された本目山親宣寺は、当時西側の地続きにあった八剣神社の神域で、周囲は巨木に覆われていて薄暗く、静寂極まる光景の中にお堂が建っていた。

この八剣神社は慶長年間(1600-1650)に建立されたが、この当時の赤羽郷とその周辺は多種多様な神や仏が祀られていた。

寺院は、親宣寺をはじめとして五ヶ寺・石像仏が七十一尊祀られており、また、神社は、村社・若一神社を含めて十一社が祀られていた。

この地が、いわゆる神仏合祀の地であり、信仰心の厚い土地柄であることは一四恩拜礼(ごんぱいれい)というのでもう一つのことから伺うことができる。

即ち、「神仏を尊び・祖先を敬い・親や兄弟姉妹に感謝・現世に感謝」というもので、この四つの恩を忘れることな

く日暮らしすれば、報恩の心え、熱心な三河門徒に支えら情が奉仕の心を生み、感謝の心で敬い、生涯にわたって神仏の御加護をいいたることができるといえる。いつの世にいても、人類が存在する限り子孫に伝承しなければならぬという事である。

このような環境のなかで、親宣寺は地元より、近郷在住の人々の「間法の寺」として浄土真宗信仰の拠り所となり、ご奉仕の念と相俟って、庶民の寺として九十余年に亘って維持されてきた。

このような経過を経て、寛政10(一七九八)年1月9日、東本願寺第二十代・蓮如上人の御直意により、東本願寺の直轄寺院、即ち、「赤羽別院本目山親宣寺」として、懸所となり、輪番がおかれて専断寺院としての任務を負うこととなった。

三河の地に浄土真宗が伝播され、民衆の間に急速に浸透したのは室町時代であるが、赤羽別院は苦節の時を乗り越

婦人部一泊研修旅行 桑名別院一行30名がご来院

梅雨最中の7月5日、桑名別院の田代輪番以下一行30名が来院参拝された。

婦人部の一泊研修旅行の一環として立ち寄られたもので、生憎の雨模様であったが、当別院の山門を傘越しに見上げて、その威容に一同感嘆のようであった。

お御堂では、真宗歌の斉唱に続き、当別院輪番が視聴覚機器を使用し、別院の沿革・教化センター設立に関する説明がなされた。

この後、手作りの広報新聞・赤羽御坊について、広報部長より編集から発刊にいたるまでの苦労話を披露するなかで、ご門徒への配布の一層の充実を目指し取り組んでいきたいものである。



ご一行のみなさん

平成27年度 通常院議会開催

去る6月17日、平成27年度赤羽別院通常院議会は、議員総数34名中32名(委任状出席を含む)が出席して開催された。

三浦輪番の挨拶に次ぎ議事では、6月30日任期満了となる責任役員には、平野 眞師 第11組 正念寺住職 田中一男氏 第13組 本淨寺門徒 木村健吾氏 第14組 蓮成寺門徒 以上三名の重任が同意された。三氏の任期は平成30年6月30日までの3年間。次いで、平成26年度経常会計及び特別会計決算案並びに平成27年度両会計予算案が上程され、議会は別段の異議なく原案どおり可決承認した。

本年3月末日任期満了の常議員には、次の7氏が選任された。

木村圭 泉敬祐・清澤 善・中柄正彦・田中弘・岩瀬敏勝・深見秀雄 (敬称略・順不同)



盛會裏に開催 夏の勉強会

亜熱帯地域化といわれ、昼間は猛暑で夜は熱帯夜が続いた今年の夏だったが、各組が英知を絞って取り組んだ夏の勉強会は、高名講師のお説教を聞き逃すまいと、何れの会場においても聴聞者でたいへんな賑わいをみせた。仏教の衰退が囁かれる今日、真宗大谷派の将来につながることを望むものである。

真城義麿師

同朋大会他
第8組

虫の音が蝉からコオロギや鈴虫に移りつつある8月28・29日の両日、第8組ではここ数年連続して講師としてお招きしている、真城義麿師による同朋大会を開催した。初日は宿願寺、二日目は隨縁寺において「無量寿如来」をテーマにお話いただいた。このなかで「帰る」という言葉を生きていく安心に変えて表現し、優しく、暖かく、強く、そして篤く語られ大勢の聴聞者の胸を打った。



鷹巣純師

夏期講習会
第9組

第9組の夏期講習会は、正覺寺を会所に8月21日、22日の両日開催された。初日は、愛知教育大学教授の鷹巣純師より「本人の地獄と絵解き」を行われた。



戸次 公正師

二日目は、大阪教区・南浪寺住職の戸次公正師が「あらゆる衆生と共に生きる」をテーマに、人間中心に生きている我々の姿を、衆生の方向から見つめなおしましょうと話された。組では、今後の講習会に資するべくアンケート調査を実施した。

祖父江佳乃師

同朋の集い
第10組

8月22日、第10組同朋の集いが八ッ町の瑞雲寺を会所に開催され、講師には名古屋市長有隣寺・祖父江佳乃師が招かれ、昔ながらの高座での説教に耳を傾けた。師は、節談説教の第一人者であった祖父・省念の志を継ぎ、節談の普調子の美声で講堂の聴衆



を魅了、最後に「節談は芸能ではなく、念仏の取り次です」と結ばれた。

第34回 暁天講座

「須世利益ではなく、本願に生きる」と、弥陀の本願を信じて念仏申す。これが真宗の全です。ところが「健康・お金・等現世利益を求めずはかりの私たち凡夫を救わんと願い、お念仏とい言葉が発せられた阿彌陀如来様。



でも語り掛ける、優しい親の口を通して、9名の講師のよき言葉を夏の朝となった。第11組暁天講座は、正信偈は「みんなのうた」をテーマに「本願・如来・凡夫」という三つのキーワードを手掛りに、9日間9会場です「正信偈」を学んだ。

中村薫師

座真宗講座
第12組

8月22日、第12組は浄徳寺に中村薫師をお招き「金子みすゞをとおぼし」をテーマに夏期真宗講座を開催。御堂に宗講者を開催、御堂に追っかける先生のお話の聞きたくて、「金子みすゞをもっと知りたい」と話された。「大漁」「私と小鳥と鈴と」等みすゞの詩

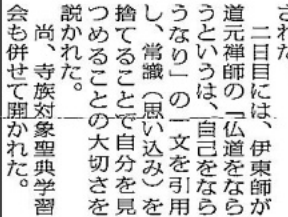


を順次とりあげ、真宗の教えに沿って、時代と実感した法座だった。マザーテレサの「一人間の最も恐ろしい病気は孤独」の言葉を回想しつつ、寄り添う家族の大切さを説かれた。今を生きている私達に対する不安や戦争に対する懸念の中で、みすゞ

池田真師

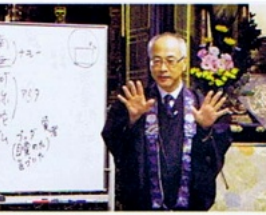
夏期真宗講座
第13組

7月23・24日の両日、慶徳寺・養林寺を会場に、池田真師・伊東惠深師を講師に招き、第13組夏期真宗講座が開催され、大勢の聴聞者が会場を埋めた。初日の池田師は、月忌参りなどを通して出会った先人の生き様やことばに触れ、安心と元



気を戴いたこと。また「お内仏開法」の実践と推進についても痛く話された。二日目は、伊東師が道元禪師の「仏道をならうというは、自己をならうなり」の一文を引用し、常識(思い込み)を捨てることで自分を見つめることの大切さを説かれた。尚、寺族対象聖典学習会も併せて開かれた。

真城義麿師 夏期真宗講座 第14組



第14組の夏期講座は、6月23・24日の両日、光輪寺において開催され、真城義麿師の講話を聴聞した。初日は、昼間に住職・寺族研修、夜は壮年対象夏期真宗講座が開かれ、一六〇名を超す参加者が「無量寿如来」と題した講話を聞いた。翌24日は、施資経法要をお勤めした後、組門徒会研修を実施、「生活と仏事」をテーマにお話いただいた。23日の講座では、無量を説く中で「日頃私達がどれだけ比較する輩の世界を生きているか」を、豊富な事例と師ならではの歯切れの良い話、皆が熱心に聴きいった。

池端・川端蓮成寺 合同暁天講座開催

碧南市鷺塚にある池端蓮成寺(大谷派)と川端蓮成寺(本願寺派)が合同で企画する、第28回暁天講座は8月9日から3日間開催された。今年は一戦後70年—あらためて平和を考える—という大テーマが掲げられた。初日は「三河地震と戦争」。碧南市中山町の熱心なご門徒・高橋祐治氏が、戦争中で被害状況等を公表することによる国民の志気の低下を恐れ、報道されなかった東南海地震と三河地震の二つの大地震について、自身の体験と併せて話された。



スクリーンに映る戦犯名

最終日は「太平洋戦争とお念仏」花山信勝師、戦犯者の最後を伝える。東條英機ら戦犯者の唯一人の教諭師で、A級戦犯の死刑執行に立ち会った花山師の体験を語った。東條氏は、師の教誨で念仏の教えに帰依し、仏道に入ったことで、人生を深く味わうことができたと言った。また、人間の欲が戦争を引き起こすのであり、平和のためには欲を見つめる宗教教育の重要性を語っている。安俣論争真っ最中の今日、あまり知られていない先人の遺徳から教えられる貴重な法会に巡り合えた。



地震を語る高橋氏

二日目は「今、あの玉音放送」を聞く。玉音放送を聞いた後、終戦時、実際に放送を聞いていた方々に、当時の状況や心境などをお話し



ご葬儀・初七日・四十九日
忌用法費用お弁当の
ご注文承ります。
ご注文承ります。

(有)エス・ケイ・シー
碧南市新川町5-75
TEL 0566-48-5279
FAX 0566-48-5226

if イスモ葬祭
家族葬から終活のことまで「イスモ」。

イスモホール西尾
TEL 0563-56-1011

イスモホール西尾 検索

年中無休 / 〒445-0063 西尾市今川町落20

さわやかな秋の旅は、



ドラゴンスパック

名鉄観光バス直営店で

第39回 岡崎教区内42名が参加 児童夏の集い

岡崎教区の教化事業「第39回児童夏の集い」は、岡崎教区教化委員会主催、教区児童教化連盟の協力により、8月18日、8月20日の3日間、三河別院と岡崎教務所において42名が参加し、赤羽崇敬区からも大勢の子が参加した。本年は「みるきくあそぶ! ほとけの子」をテーマに、講師に本山青少年センター主任・江馬雅臣師を招いてお話をいただき、朝夕のお勤めや座談会・オリエンテーションや



キャンプファイヤーを楽しむ

キャンプファイヤー等を楽しみながらお寺での生活を十分に体験することができた。参加者の中には、初めてお寺に来たという子が数名いたが、そうした子たちの「来年も友達と一緒に参加したい」という明るい笑顔と澄んだ瞳が印象的だった。

子ども達がお寺に足を運び、仏法時間歩みのはじまりを感じる三日間であった。

あつ〜いなつ! お寺に集う子どもたち

70名もの子どもが常瑞寺へ 夏休み寺っ子クラブ

第14組

猛暑日となった7月29日、第14組児童教化部門では、「夏休み寺っ子クラブ」を開催。会場となった常瑞寺には元気な子ども70名が集まった。



子どもの調声で夕事勤行

開会式後の夕食用カレシライス作りでは、皆が手分けして、玉ねぎ・人参・じゃが芋の皮むき等を行い、包丁やヒララを使うの作業では、ハラハラする場面もあったが、スタッフの指導により怪我もなく、本格的なおいしいカレシができた。

夕食前のゲームでは、割れんばかりの歌声で盛り上がったが、班長の「今からお夕事を始めます。姿勢を正して、静かにして下さい」の声に、一同が念珠と勤行本を手に整然と正座する姿を見たとき、お寺にお参りするこの大切さを改めて知らされた。

勤行では、平等寺・齋藤住職より調声の出し方や整ったたき方を教えていただいた6名の子が導師となり、堂内に「正信偈」の声がひびきわたった。

施齋経法要に 三味線とインドの太鼓

第12組 蓮光寺



演奏会のようす

前日までの長梅雨から一転して夏空の広がる7月12日、第12組・蓮光寺で施齋経法要が厳修された。

二門徒代表の調声により正信偈・同朋奉讃がお勤めされた後、三味線とタブラ(インドの太鼓)の二人のユニットPAKIR-DE-SAT(パキデサット)のコーポ演奏と歌唱に満堂の賑わいを見せる。堂内は終止湧きに湧いた。パキこと西出百合香さんは、幼少より郡上節全国大会優勝として活躍中の人。

第8回 子ども絵画展

- 赤羽別院子ども絵画コンクールには、今年も多数の作品を応募いただきありがとうございます。
- 慎重に審査の結果、次の皆さんが金賞及び銀賞に選ばれました。
- | 金賞受賞者 | 銀賞受賞者 |
|---------|---------|
| 岡村 郁花さん | 小島 七緒さん |
| 吉崎みなみさん | 岩瀬 未来さん |
| 木口 綾乃さん | 川上 侑友さん |
| 清水 彩華さん | |
| 永岡 享馬くん | |
| 川上 芽依さん | |
| 一年生 | |
| 二年生 | |
| 三年生 | |
| 四年生 | |
| 五年生 | |
| 六年生 | |

満堂の聴衆と一体となり和気あいあいの雰囲気、パキさんの「この連帯感と蓮光寺住職の人柄」に堂内は大拍手。伴奏は、最後に演奏された津軽三味線の速弾き、2時間程の「懐かしい曲の新ライブ」は怒涛の如き興奮のつとごと化し、その幕を閉じた。

二人がユニットを結成した昨年4月以降は、日本全国で演奏活動を続けている。

崇敬寺院の新住職

第8組・慶昌寺 第11世 三浦 信水師 平成27年7月28日就任 (ひとこと)



先般、本山にて住職任命式を終えました。浅学非才ですが、仏法と寺院を相続し、聴聞に励み、慶昌寺繁栄に精進します。

俳句(順不同)

- 体操のあとお勤めや 夏の寺 藤原 寛
級じ池ぶ 御文章様も お虫干し 鎌田 晴枝
三太坂の 辰夜のお掛け 昼休み 榎原さらよ
坊守の 手入れ細や 連の花 榎原 重子
連守に 挿す百花の 天井画 連沼たけし
謙虚さも 遠慮も知らぬ この残暑 齊藤 浩美
朝の来ぬ 夜はなしと聴く 夏法座 信川 芳枝
鬼灯や 空をも染めて 盆供養 近藤 芳正
不足なき 暮しに甘え 墓掃除 演島 君江
極楽は 柳などところか 蓮の池 平岩 芳魚
- 川柳(順不同) 運者 三浦真美氏他
お念仏 唱え浄土の 席予約 佐藤 哲也
御説法 小首納得 しない自我 角谷 實苗
ひとつ覚え ふたつ忘れて 盆支度 粕谷 弘子

ツバメの子育て

五羽の子どもに、せつせと餌を届ける親ツバメ。過7月、良興寺の本堂の軒下です!



お寺の天然記念物

西尾市指定・天然記念物 慶昌寺のイブキ (別名 シンバク)

西尾市花蔵寺町上島南27 第8組・慶昌寺境内 指定 昭和44年

物品寄贈

- ・会議用座椅子 13脚
 - ・木村健吾様(第14組・蓮成寺)
 - ・講座名大看板 2枚
 - ・イズモ葬祭様
- 貴重なご懸念をありがとうございました

お寺の掲示板

他人を見て批判する人は 山にいるが 自分を見て反省する人は ほとんではない

第九組 福泉寺